第23回福山駅前デザイン会議

2026年3月25日（水） 15:30～17:30

福山市役所 本庁舎3階 大会議室



agenda 01　福山駅前広場再整備と連動する周辺エリアのまちづくりについて

- 多くの経営者が駅前広場の整備によるエリア価値の向上に強い関心を持っている。また、若者にとっては大学の立地が重要であり、駅前に大学があることが理想的であるとの経営者の声がある。
- 「福山みらい創造ビジョン」では、若者や女性に選ばれるまちづくりを意識している。人口規模が近い他都市と比べて、福山市は客観的評価より主観的評価（市民の満足度や自負）が低い傾向にあり、駅前広場を「居心地のいい空間」に変えることで胸を張れるようになると思う。
- ナイトタイムエコノミーや宿泊税の活用により、滞在時間と消費額の拡大をめざしている。年間約135万人の宿泊客の満足度を高めるためにも、魅力的な駅前広場の整備が重要である。
- 駅前広場から周辺市街地（伏見町、三之丸町、新体育館周辺）、さらに市内各拠点（神辺・松永等）、備後圏域へと段階的に波及する構造の整理が必要である。
- 駅前広場は官主導の官民連携である一方、周辺エリア（伏見町・三之丸町）は民主導で行政がバックアップする「民官連携」となることが望ましい。
- 駅周辺エリアは、何もしなければマンションやホテルばかりになるため、ビジネスなどを戦略的に呼び込むことが必要である。その波及で駅前広場に時間帯によって多様な人々が集うようになり、駅前広場と周辺エリアの相乗効果が生まれてくる。
- 伏見町では商店会を中心にまちづくりの議論が行われており、今後は駅前広場とどう連携するか、特にさんすてに面する部分やアーケード撤去など通りのあり方の議論が必要である。
- 駅前エリアと全世代交流型エリア（プロスポーツ施設案があるエリア）をつなぐことで、エリア間の道路沿いを含めたにぎわいを考えることも重要である。
- 駅前広場の周辺に少人数のグループが気軽に集まれる「アフォーダブルな場」ができれば、広場と周辺の場が連動して、滞在時間が延び、消費につながる。また、「駅前に拠点を持ちたい」といった需要を先に作り、そのニーズに応じたオーダーメイド型の事業を展開することで、駅前全体の活性化につながる。
- 旧三菱UFJ銀行福山支店の跡地利用については、今後相談しながら考えていきたい。
- 郵便局が老朽化しているが、本局機能を持つ郵便局をまちなかに残すことがビジネスを支えることになる。

（ウラ面へつづく）

意見交換（つづき）





- 都市再生推進法人の制度活用により、行政のお墨付きを得た民間が、主体的にまちづくりを進められるとよい。行政も民間も面白がって取り組める雰囲気をつくれるとよい。

- 都市のあり方としては「ウォーカブル（歩きたくなる）」に加え、「ステイアブル（滞在したくなる）」価値の創出が重要である。まちに滞在する価値を創るのが広場や公園の大きな役割。駅前広場や伏見町・三之丸町を、まず求心力を持つ空間にしていくことが肝になる。

- 福山駅北側の文化ゾーンの利用客（年間約39万人）を、いかに南側の駅前広場へ誘導し、流れを作るかが課題である。

- 周辺エリアの住民や事業者が駅前広場の効果を自らの取組に取り込む意識を持たない限り、まちは変わらない。行政、経済界（商工会議所等）が一体となって地域住民を支援する仕組みができればよい。

- 住民や事業者が、まちのビジョンを明確にした上で共有し、店舗活用や清掃など、まちを自分たちで作っていくためのルールづくりや、関係者が一体となってまちを変えようとする姿勢が、地域の価値向上や投資につながる。

- 100万本のばらがあるだけでなく、「ばらでつながるまち」をめざすべきである。滞在型にするため、多様な業態（花屋やおしゃれな花器店など）を呼び込み、企業の価値を「見える化」して若い人が憧れるまちづくりを進めることが重要である。

- まちづくりは個人戦ではなく「団体戦」。地域の商店、不動産オーナー、居住者がまちづくりの方向性について、まちの当事者として合意形成を行い、地域で取り組まないといけない。

- 伏見町など古い建物が多く、人口が減っているエリアで合意が取れたところからチャレンジ（車を進入禁止にしてテラス席にするなど）をどんどんやっていくべきである。その先に「面白いエリアになるのでビルを建てたい」という投資が起きてくる。

まとめ




- 駅前広場を再整備することで、伏見町など駅周辺のエリア全体でも、今後どのようなまちにしていくかを考える動きが生まれやすくなる。こうした動きの中で、国内外の面白い事例も参考にしながら、自分たちのまちに合った新しい取組を進めていくと良いまちができていく。

- 意識が変わらないと、まちは変わらない。行政と経済界で連携しながら意識の変化に取り組んでいきたい。

- 日常的なにぎわいやJRの南北にまたがるイベントの一体化についても検討していく必要があり、やる気のある人たちを集中的に支援・バックアップしながら、エリア価値の向上につなげていく。

- 広場の完成を待つのではなく、整備ができた時にはすでにまちが変わっているような状態をめざしていく。